

農産物加工施設とは？

～大山恵みの里づくり計画の推進～

1. 目的、機能は

農産物加工施設は、西伯郡東部地域合併協議会の「まちづくりプラン」や、大山町総合計画に示されたもので、町内の優れた農産物や水産物を集荷し、そこで加工処理を行うことにより、付加価値が高まり、生産者所得の向上や生産意欲の増大、大山ブランドの拡大につなげることを目的に建設する施設です。当然、商品の開発や販路の開拓、販売の促進も必要となってくるので、施設には、調理室をはじめ、レトルト加工室や保存用の冷凍冷蔵庫、さらに独自商品開発のための研究開発室などが計画されています。

大山の豊かな恵みを受けた町内特産品の価値を、より高め、より広めていくための生産者支援拠点施設としての活用と、産業・雇用・所得の活性化効果が期待されます。

建設地は、農産物出荷量の多い中山地区内に予定されていますが、その場所はまだ明らかではありません。

農産加工施設の目的と予想される成果

目的

1. 一次加工処理施設
2. 調理済食材供給
3. 流通業者向け「大山恵みの里ブランド」商品供給
4. プライベートブランド開発・販売チャンネル開拓



予想される成果

1. 生産者の所得の向上
2. 生産意欲の増大
3. 耕作地の拡大（耕作放棄地の解消）
4. 産物の品質向上

2. 施設の財源は

総事業費は約2億1,000万円で、その財源に、国の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金（1億500万円）と、充当率95%の合併特例債（9,700万円）を充てるなど、有利な財政支援制度を活用した結果、建設時の実質負担額は、約800万円となります。その後のランニングコストについては、施設の売上収入などで賄われ、町からの資金援助はありません。